

令和 6 年度環境学習フェスタ開催報告	1P
霞ヶ浦クリーン UP 活動報告・計画	2P
霞ヶ浦湖岸植物定点観察活動報告	3P
令和 7 年度「霞ヶ浦湖岸植物同好会」計画	4P
令和 6 年度後期図書活動報告・計画	5P
身近な水環境の全国一斉調査活動計画	5～6P
私の細道 (52) 福井から敦賀	6～7P
新パートナー・新任職員紹介他、編集後記	8P

令和6年度環境学習フェスタ開催報告

令和7年2月15日の土曜日に、「令和6年度環境学習フェスタ」を開催いたしました。

イベント当日は、メインプログラム「環境学習成果発表会」や土浦市主催による「高校生霞ヶ浦ミーティング」が多目的ホールにて開催されたほか、館内では市民団体等による環境に関する体験・学習・展示等のブース出展、屋外では地元の飲食店によるケータリング出店等があり、全体で2,500名の方が来場されました。

環境学習成果発表会では、県内小中高校の児童・生徒（団体・個人12組）による日頃の環境学習や環境保全活動に係わる発表が行われ、来場者の皆様にも環境への関心が高まる契機となったほか、児童・生徒同士や来場者間で盛んな質疑応答が繰り広げられ、大変有意義な発表会となりました。また、今年度はポスター発表も実施され、当センターの研究職員も交え、活発な意見交換が行われました。

市民団体等による 15 のブースが出展した館内では、多くの来場者で賑わい、楽しみながら環境について学んでいる姿を見ることができました。センターパートナーの皆様には、「六角返しと万華鏡工作を楽しもう！」のブース出展にご協力いただきましたこと深く感謝申し上げます。

また、ご当地キャラクターとして、近隣4市より、つちまる（土浦市）、フックン船長（つくば市）、ちっくん（筑西市）、カミスココくん（神栖市）が登場し、来場者の皆様に楽しいひと時を提供しました。

今回の環境学習フェスタでは、上記のほか、屋外に飲食ケータリングカーも出展するなど、イベント全体として大盛況のうちに無事に幕を閉じることができました。

次年度もパートナーの皆様には、引き続きお力添えいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。
(センター 塚)



□令和6年度活動報告

我々ができる身近な活動として「きれいな霞ヶ浦」をテーマに、パートナーやセンターのご協力のもと、霞ヶ浦湖岸（2.3km）のゴミ拾いを実施していますので、その活動結果を報告いたします。



令和6年度は天候に恵まれず「雨天中止」、「猛暑の時期には熱中症予防の活動中止」と5回の中止を余儀なくされました。

そのような中でも、冬季の晴れ渡る時期には、遠くに富士山が見え気分爽快でした。美しい環境は私達の宝物だと感じた一瞬でした。

今年度の回収したゴミは、分別後の袋数で数えると以前より少なく、まとめて捨てられたゴミの量は確実に少なくなっています。4月と年末年始に多く出た大型ごみの投棄も、ビックリする程少なくなりました。時流に後押しされての意識の高まりなのか、このままさらに無くなってくればよいのですが。

活動時には挨拶も心がけていますが、釣り

人から「ゴミは持ち帰るからね。」と声をかけていただいたのは、とてもうれしい瞬間でした。

これからも多くの方が環境に関心を持っていただけるよう、活動を続けていきたいと思います。

令和6年度活動実績

- ・活動日：毎月1回、原則第3日曜日 年間7回活動できました。
4/23・5/19・10/20・11/24・12/15・令和7年1/19・2/23
- ・時間：午前9時～11時頃
- ・回収総量：33袋（回収の内訳：可燃→21袋 不燃→12袋 令和6年度活動7回の合計。
令和5年度は8回の活動で計44袋。）
- ・参加者延人員： 23人

□令和7年度活動計画

令和7年度は、下記の日程での活動を計画しています。（原則第3日曜日ですが、一部の月は第2・第4になります。）

・4/13・5/18・6/15・7/20・8/17・9/21・10/19・11/16・12/21・1/18・2/15・3/15

環境の維持改善のため、皆さまのご参加をお待ちしています。

（パートナー 佐伯）

令和6（2024）年度後期「霞ヶ浦湖岸植物定点観察」活動報告

掘削地周囲のゴキヅル、タコノアシ(国県準)、アサザ(国準県Ⅱ)等の多様な植生を観察。外来生物の抜き取り等保全活動をした。

月/日	ABEFGHIJKL 区観察概況 (Ⅱ:絶滅危惧Ⅱ類、準:準絶滅危惧、特外:特定外来生物)
R6 10/09, 11	セイトカヨシ(県準)やオギの穂が出た。サクラタデ、ウナギツカミなどが花を付け、多種多彩なイヌタデ属の植物が見られた。ヤブマメやタンキリマメ(県Ⅱ)、 ゴキヅル やアレチウリ(特外)には花と共に実が見られた。H区で増えたマツカサスキが果実散布中だった。I区のアガエツルノゲイトウ(特外)の新たな侵入地に生態系被害防止重点対策種のアマゾンチカガモも出現していた。自然観察会の下見を兼ねてH区掘削地周囲の観察路を整備した。
11/13	オギの果穂がたなびき、カマツカやノイバラなどの赤い実、色とりどりのノブドウの実、アキニレの翼果を観察した。ヌルデは実と共に紅葉が見られた。ミゾソバやヤナギタデなども結実し紅葉した。黄葉したサヤヌカグサには僅かに小穂が残っていた。オオバナミズキンバイ(特外)が生育している蓮田周辺を観察し、合わせて5枚の休耕田に繁茂していることを確認した。ナガエツルノゲイトウ(特外)などの除去活動に参加し、 アサザ (国準県Ⅱ)の生育を確認した。
12/11	オオフサモ (特外)が水中越冬のため横に倒れ、ネムノキなどで落葉が進んでいた。低地ではヒメガマなどの枯れ葉が目立ち熟した果実を盛んに散布していた。1年草のイヌホオズキやイガガヤツリなどはまだ花序を付け、できるだけ多くの実を結ぼうとしていた。オヤブジラミの実生が緑葉を広げ、陽だまりでナズナやホトケノザが花を付けていた。ナガエツルノゲイトウ(特外)の中空の切れ茎がテラス状の群生周囲で多数浮いているのが見られた。
R7 1/08	オニグルミなどの裸木とヨシなどの冬枯れの景色が広がっていた。セイトカヨシ(県準)にはまだ緑色の葉が残るがカワヤナギには早くも芽鱗を脱いだ銀色の蕾が見られた。常緑のマンリョウやサネカズラに赤い実が見られ、枯れた タコノアシ (国県準)やアレチウリ(特外)などにもまだ実が残っていた。メマツヨイグサやスイバ・ギンギシ類などのロゼットが見られ、マツモ(県準)は越冬用の殖芽を作っていた。
2/12, 19	立ち枯れのヨシの冬景色が広がり、様々なヤナギ類の樹形とマグワやゴンズイなど特徴のある樹皮や冬芽・葉痕などが見られた。水中のミズヒマワリ(特外)に緑色の茎と葉が見られたがナガエツルノゲイトウ(特外)は目立たなかった。結氷の蓮田で オオバナミズキンバイ (特外)は地上部が枯れたが地下茎に新芽が見られた。ヤナギトラノオ(県Ⅱ)生育地でセイトカアワダチソウ等の抜き取り、ノウルシ生育地でマルバヤナギの落枝を集める等、観察路の整備をした。
3/12	三寒四温の湖岸でタチヤナギとジャヤナギの冬芽が動き出し、 オノエヤナギ など展葉前に開花する仲間の花が見られた。整地後の低地でオオオナモミが多数の実を付け、立ち枯れの茎が林立するオオイヌタデの周囲には実生が密生していた。道端で茎を斜上させ蕾を付けたハナイバナを見つけた。タネツケバナ類やノゲシ類が花や実を付け、フラサバソウやヤブツバキが満開だった。タンキリマメ(県Ⅱ)にはまだ葉が残り黒い豆を付けた赤褐色の莢が見られた。



10月**ゴキヅル**(ウリ科)蔓性1年草
突起のある蓋果には2個の種子が入る



11月**アサザ**(ミツガシコ科)浮葉性多年草
好適な浅瀬が減少し国準県絶滅危惧Ⅱ類



12月**オオフサモ**(アリノトウグサ科)多年草
水中で越冬する南米原産の特定外来生物



1月**タコノアシ**(タコノアシ科)多年草
攪乱依存種で国・県準絶滅危惧



2月**オオバナミズキンバイ**(アカバナ科)多年草
南米・北米南部原産の特定外来植物



3月**オノエヤナギ**左♂右♀(ヤナギ科)落葉樹
北地に普通の種で長い葉には光沢がある。
霞ヶ浦湖岸植物同好会 (パートナー 二階堂)

令和7（2025）年度「霞ヶ浦湖岸植物同好会」活動の計画

環境学習推進活動の一環として、センター主催の「霞ヶ浦自然観察会(植物)」に於ける補助活動及び「いきもののにわ」の整備・観察学習活動とパートナー自主企画活動の「湖岸植物定点観察」を行う。

霞ヶ浦自然観察会は霞ヶ浦やその流域が育む豊かな自然や生き物に直接触れて楽しみながら学び、霞ヶ浦に対してできることを共に考えて行くことを目的として行う。

湖岸植物定点観察は自然再生事業地を含む湖岸(下図)で、環境の変化等が植物相に及ぼす影響を見るため原則毎月第2水曜日に実施する。水辺の代表的な種、絶滅危惧種等の希少種、特定外来生物等は年間を通して生育状態や生活史、分布状況や消長などを継続観察する。毎月、植物記録と共にこれらの花や実、冬芽(葉痕)や展葉など、旬の植物写真に説明を付けて2階展示コーナーに掲示する。これまでの観察結果を活かして、ヤナギトラノオ、ノウルシ等希少種の保全活動をする。またナガエツルノゲイトウなど特定外来生物の防除活動に参加する。



R6.5.18 第1回霞ヶ浦自然観察会
「桜川の源流筑波山春のブナ林」



「いきもののにわ」整備活動 R6.9.24

各区の経過と注目種

写真：霞ヶ浦河川事務所
挿入地図：川尻川周辺

〔希少種・外来種等の略語表記〕
Ⅰ B, Ⅱ 準：絶滅危惧ⅠB類, Ⅱ類,
準絶滅危惧
特外：特定外来生物



A区：(H19～再生工事)
北小池オニナルコスゲ,
南小池サジオモダカ(県
準), 南池ミズヒマワリ(特外)
(R2.3 改修工事施行)弁天
前低地笹藪跡ジョウロウス
ゲ(国Ⅱ県準), サジオモダ
カ(県準), カサスゲ

B区：(H25.3 引堤工事完了)(R3.3 月幅 3m低地盤下げ)(R5～R7.2 低地一斉草刈)旧堤セイタカヨシ
(県準), ヤブヘビイチゴ, ハッカ, アレチウリ(特外), ナガエツルノゲイトウ(特外)

HI区：(H27-29 再生工事)以前～ヤナギトラノオ(国Ⅱ)R5Ⅰ区, ジョウロウスゲ(国Ⅱ県準),
ミクリ(国県準), ノアズキ(県準), セイタカヨシ(県準), オニナルコスゲ, ドクゼリ, マツ
カサススキ, 工事～アサザ(国準県Ⅱ), カンエンガヤツリ(国Ⅱ県準), タコノアシ(国
県準), ミズアオイ(国県準), カワヂシャ(国県準), ウスゲチョウジタデ(国県準), サ
サバモ(県Ⅱ), ノニガナ(県準), フトイ, ヒロハノコウガイゼキショウ, ヒメミズワラビ, コ
ウキヤガラ, ミズヒマワリ(特外), オオフサモ(特外), オオバナミズキンバイ(特外:
R2.7 侵入 R5.12-R6.1 掘削, 遮光)R6 蓮田, ナガエツルノゲイトウ(特外:R4Ⅰ区 R5H区)

E区：ノウルシ(国県準), セイタカヨシ(県準), ヤワラスゲ, ハンゲショウ, イヌドクサ
(H29-30: 広範囲の皆伐)アレチウリ(特外), ナガエツルノゲイトウ(特外:R3.8 初認
R5.7 盛土際 R6 採取少数維持)F区 R6 水際少数

G区：ノウルシ(国県準), ヌマアゼスゲ(国Ⅱ県ⅠB:R1.6 初認)(H31.1 浚渫土撤出), マツ
モ(県準:R2.11 初認～水路), カンエンガヤツリ(国Ⅱ県準:浅瀬多数 R5.9～), ナガエ
ツルノゲイトウ(特外:水際 R5.8 初認 R6 浅瀬繁茂)

J区：(H15 整備ウェットランド消波堤)ナガエツルノゲイトウ(特外:R3.7 初認～生育地拡大)

K区：(R4 法面伐採 R5 皆伐盛土撤去整地～R6.5 月)裏法アサマスゲ(国準県ⅠB), 畦オ
グルマ, 川尻川沿タンキリマメ(県Ⅱ), 整地後低地ジョウロウスゲ(国Ⅱ県準), アレチ
ウリ(特外), 水際ナガエツルノゲイトウ(特外:R5.6 初認 R6 水際テラス～帯状繁茂)

L区：タンキリマメ(県Ⅱ)川尻川沿・法面, オオフサモ(特外)水路・蓮田

〔日程〕 9:00(冬期 9:30)集合 (保全活動: 9:30 集合～11:00 現地解散)
～12:00 現地 12:15～昼食 12:45～13:00 新出種・希少種等確認
13:00～14:00 記録整理(植物名合わせ・展示物選出)

「いきもののにわ」整備活動の予定

原則毎月第4水曜日 10:00～11:30 (集合 作業確認 作業・休憩 片付け)

作業内容: 除草, 間引き, 移植, コンテナ・プランターの整理, 名札整備等



湖岸植物定点観察 R6.6.12K区



ノウルシ観察路整備
R7.2.19H区

湖岸植物定点観察の年間予定

活動年月日	原則第2水曜日
R7 4/9	9:00 集合
5/14	〃
6/11	〃
7/9	〃
8/6	(第1水曜日) 〃
9/10	〃
10/(1),8	(保全活動 9:30 集合)〃
11/12	9:00 集合
12/10	9:30 集合
R8 1/14	〃
2/11,(18)	〃 (保全活動)
3-11 3-25 (庭整備終了後 ～)	9:00 集合 同好会打ち合わせ (R7 年度まとめ・新年 度の活動計画)

霞ヶ浦湖岸植物同好会(パートナー 二階堂)

令和6（2024）年度後期図書活動報告及び令和7年度図書活動計画

1、文献資料室の図書紹介文の作成

活動日は原則毎月第2、第4金曜日です。令和6（2024）年度後期は計12日活動しました。紹介本は、新規購入図書（寄贈図書を含む）を中心に42冊でした。紹介本そのものはセンター2階交流サロンの「パートナーが選んだおすすめの本コーナー」に有りますので、どうぞご覧下さい。また、「図書紹介本一覧」は、次号香澄第43号令和7年7月31日発行に掲載致します。

令和7年度の活動計画は、令和8年3月の活動日が第2金曜日に変更以外は、令和6年度と同じ内容です。

参加パートナー（浅野、高石、古田）



図書紹介活動

2、読み聞かせ活動

文献資料室所蔵の絵本、紙芝居等の中から自然保護や水質汚染、地球温暖化など環境問題を題材にしたものを中心に読み聞かせ実演をしています。

活動日は原則毎月第4土曜日の午前11時～／午後2時～の2回です。令和6（2024）年度後期の活動は6日間。午前、午後の計12回の実演でした。参加者は大人49人、子ども66人の計115人でした。参加者にはパートナー手作りの「しおり等」をプレゼントしています。また、参加者の増加を目指してパートナーによるマジックの実演も取り入れて居ります。

令和7年度の活動計画は、活動日が6月と12月、令和8年3月が第3土曜日に、8月が第5土曜日に変更以外は令和6年度と同じ内容です。

参加パートナー（浅野、森田、戸嶋、小松、江畑、岡田、出田、）

（パートナー 浅野）



読み聞かせ活動



マジックの実演

第22回身近な水環境の全国一斉調査活動計画

本活動は平成25年6月の「第10回身近な水環境の全国一斉調査」から続けて参加している活動です。第22回（令和7年）で連続13回の参加となります。第22回身近な水環境の全国一斉調査は、下記2地点で東京・国分寺市の全国水環境マップ実行委員会事務局へ参加申込みをしました。調査内容は下記のとおりです。

- ・調査日（予定日）：令和7年6月8日（日）
- ・調査内容、方法：統一調査マニュアルに基づく気温、水温、試水水温、パックテストによるCOD測定、透視度、電気伝導度を調査。その他、特記事項として水辺の状況・流れ・濁り・散乱ごみ、川の変化についての意見（今と昔）の実施。
- ・調査地点：花室川（精進橋）、巴川（にのはし）の2地点です。



調査風景 小野川（下根大橋）R6.6.2



巴川（にのはし）R6.6.2

（パートナー 浅野）

私の細道（その52 福井から敦賀へ）

2011年から始まった芭蕉を追う旅も終盤となった。今回は、福井から敦賀までの行程を記す。

福井に「古き隠士」がいた。もと連歌師で、松永貞室の弟子神戸洞哉^{かんべとうさい}であるが、「おくのほそ道」では芭蕉は等裁と記している。気さくな男で、10年以上前に江戸へ芭蕉を訪ねてきたことのある旧知の間らしい。粗末な小家で、芭蕉が訪ねた時には等裁は不在、佻し気な妻が応対したとある。まるで、光源氏が六条御息所の怨霊に会うかのごとき場面として記しつつも、その後、再会した等裁と意気投合して、2晩世話になっている。そして、敦賀の港で名月を見ようと福井を立つが、等裁も芭蕉に同行する。福井を8月13日（陽暦9月26日）に出て、道中、あさむづの橋、玉江の蘆、鶯の関と歌枕の地を行き、湯尾か今庄で1泊した後、14日に燧ヶ城・帰山（歌枕）を見て敦賀の津に着き、その夜は晴れていて気比の明神に参拝した。しかし、残念ながら肝心の15日は雨で名月は見ることが出来なかった。

14日	月清し遊行の持てる砂の上	芭蕉
15日	名月や北国日和定めなき	同

次日16日は、西行の和歌に寄り添うべく、対岸の種^{いろ}の浜^{はま}に舟で出かける。

寂しさや須磨にも勝る浜の秋
波の間や、小貝にまじる萩の塵

この行程は、予め曾良が先んじてチェックし、しかも、後から来る芭蕉の必要な金子を宿に預けおくなどしていることが、曾良の随行日記8月9日（陽暦9月22日）の項に詳細に記されている。中山温泉以降の芭蕉の旅の行程を曾良と綿密に打ち合わせていたことが分かる。



福井 左内公園揭示版

我々夫婦と義姉夫妻の4人は、2023年8月30日の昼ごろ、義兄の車で永平寺から福井市に移動して、芭蕉が訪ねたという等栽宅跡に向かった。福井駅の西1^きに「左内公園」がある。幕末安政の大獄で処刑された橋本左内の像が公園中央に立っている。その片隅に「芭蕉宿泊地洞哉（等栽）宅跡」の碑が置かれ、その仔細が表記されている。この場所にも折々の歴史があった。

そして、敦賀を目指して南下する。ここが「朝六つ橋」と義兄にナビを見ながら言われて降りてみるも、街中の小川に石橋が掛かり、西行の和歌と芭蕉の句を並記した碑があるのみである。これがあさむづの橋。歌枕とはこのように

伝えられつつ変貌していくのだ。更に行く。宿場町今庄に入り昔の街道らしき山裾で、鶯の関跡と義兄がいう。車を降りてどこだどこだと探すも見当たらず、家内も降りてきて、少し先に行くと、あった。鶯の関跡と書かれた大きな碑が山沿いに置かれていた。ここも歌枕の地。さらに、「おくのほそ道」の記載に沿って南下して、燧ヶ城跡と進めば新羅神社に着き、ここが城跡への登山入口となっていた。



色ヶ浜 本龍寺

敦賀に着いたのは午後3時過ぎ、まず目指したのは「敦賀市立博物館」。暫し、敦賀と芭蕉関連展示物を鑑賞した後、芭蕉らがここで宿泊したという出雲屋跡の石柱を道路脇に見て、敦賀湾の対岸に位置する色ヶ浜へと。小さな砂浜の横が漁港となっている。浜に出て地元の漁師らしき人に芭蕉について聞いても分からない。道路沿いに、芭蕉と等栽の訪れた本龍寺があり、西行の歌碑と芭蕉の句碑が置かれている。「おくのほそ道」の中に、この寺を法華寺として、「その日のあらまし、等栽に筆をとらせて寺に残す」とある等栽の書は今でも寺に所蔵されているとの事。この浜には「ますほの小貝拾はんと」と芭蕉が書いているように、西行の歌にも詠まれた赤色の小貝が浜にある。

色ヶ浜から敦賀に戻る途中に西福寺という浄土宗の寺がある。芭蕉は訪れていないが先遣の曾良のみ立ち寄り、随行日記に出ている。私はチェックしていなかったが、義兄が予定に組み入れてくれていた。この寺の御影堂は修復工事中であったが、山麓の一角を落ち着かせる佇まいである。曾良の文学石碑が三門そばにある。このあたり、江戸初期には陸路は難所で舟での往来が多かったらしいが、何故、曾良がこの道を通り、西福寺に立ち寄ったかについては触れられてはいない。西福寺と敦賀市内の間の海岸縁が気比の松原となっている。日本三大松原のひとつであるが、若者たちが車やバイクでやってきては暫し休憩といった夕方の景であった。この日は敦賀市内に宿泊した。

いよいよ、「おくのほそ道」結びの地、大垣への道となるが、今回はその途上であった話題を紹介したい。

(パートナー 小松)

新加入パートナーのご紹介（敬称略）

やま くち ひろ ゆき
山 口 弘 之

パートナーに関する新任センター職員の紹介

セ ン タ ー 長 小 岩 明 彦
副センター長兼総務課長 かしわ のり ゆき
柏 則 行
環境活動推進課 主事 の どの り こ
野 殿 理 瑚

「パートナー情報誌香澄」編集委員及び掲載原稿の募集について

香澄編集委員会では、パートナーの皆さんにパートナー活動やセンター事業に関する情報を発信するため定期的に「パートナー情報誌 香澄」を発行していますが、皆さんも香澄編集に携わってみませんか。興味のある方のご参加をお待ちしております。

また、香澄に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センター内での活動内容や、お住いの地域の話などなんでも結構です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れていただくか、下記のメールアドレスにご投稿願います。皆さんからのご投稿をお待ちしております。

[投稿先メールアドレス]

e-mail: hi.tarumi@pref.ibaraki.lg.jp

＜編集後記＞**



花の時期は、足早に過ぎ去り新緑の季節を迎えました。

同盟国の気まぐれなリーダーの一言一句が世界中の動揺を招いています。彼にとっては、自国経済第一でありその影響の及ぶところはお構いなし。環境の劣化もまた意に介さず、経済発展に寄与してきた産業を維持するためには、環境負荷に目を瞑ることも当然なのかもしれない。自然環境や国際社会が、彼の信念にどこまで同調できるのか。いずれ限界のときは訪れるであろう。世界の警察を自称する大国が、自ら秩序を乱してきたと唱える論者もある。

関税によって貿易収支や消費行動に変化を与えることができるのか、甚だ疑問であり、歪な産業構造をもたらすことになるのではないかと。食糧自給率の低い我が国にとっては、相互関税の影響は、低所得者層等が一番負担を感じるようになるのではないかと。政策によって、需給を護ってきた米価も高止りしている。消費者の負担は、嵩む一方である。

国策に影響を与えること地球規模での活動は困難でも、それぞれの立場でできることを通して、環境保全に貢献していきたいと思ひます。編集委員会では、読者の皆様の知見もお借りしたいと存じますので、投稿を通じてご意見、ご見識をご披露下されれば幸いです。

（パートナー 栗原）

「香澄」編集委員会：浅野明宏、有吉潔、栗原繁、樽見博文